

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年8月27日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.144]

## JR総連は革マル浸透問題の説明責任を果たせ！

JR連合は、民主党・鳩山内閣が本年5月11日にJR総連・東労組に革マル派が浸透しているとする政府答弁書を閣議決定したこと、8月3日の衆議院予算委員会で中井治国家公安委員長が、今もなお、政府の認識に変わりがないことを答弁したこと、さらに、「JR革マル派43名リスト裁判」の6月30日付のJR総連側準備書面で「JR内の組合内にはかつては革マル派の組織が存在した」などと述べ、革マル派との一切の関係を否定してきた主張を覆したこと、などの経過を踏まえ、JR総連に対し、8月25日付で以下の「公開質問状」を送付し、それらの課題に対する見解を明らかにするよう求めた。

1. 政府答弁書、大臣答弁に対する貴組織の見解を明らかにされたい。なお、貴組織への革マル派の浸透が事実無根だとするならば、その根拠を明らかにされたい。
2. 政府答弁書、大臣答弁の内容について、政府に抗議を行う意思はあるのか、貴組織の見解を明らかにされたい。
3. 「JR総連通信 No.986」にある「まじめな労働組合活動、平和や人権を守る活動を“良”としない輩」とは、政府も指しているのか、貴組織の見解を明らかにされたい。
4. 貴組織への革マル派浸透の問題について、公益に照らして、第三者による徹底した真相解明を行うべきと認識するが、そうした考えはないか、見解を明らかにされたい。
5. 「リスト裁判」において、貴組織の現職、元職の幹部役員ら43名の原告側は、本年6月30日付の準備書面で「JR内の組合内にはかつては革マル派の組織が存在した」などとする新たな主張を行ったが、この内容に関し、以下の点について見解を明らかにされたい。
  - (1) 「JR内の組合内にはかつては革マル派の組織が存在した」などとする内容は、貴組織の公式の見解と理解してよいか。
  - (2) 貴組織は、かねてより革マル派との一切の関係を否定してきたが、従来のそうした主張や見解は虚偽であったことを認めるのか。
  - (3) 貴組織への革マル派浸透の経緯や実態について、貴組織が把握しているすべての内容を詳細に公表すべきと考えるが、どうか。
6. 上記の点について、9月3日までに文書で回答されたい。なお、本状および回答については公開することを申し添える。

### JRへの革マル浸透は国をあげて解明すべき治安問題だ！

上記の政府答弁書や予算委員会審議と呼応して、「治安フォーラム」「WiLL」「新潮45」「週刊新潮」「産経新聞」などの刊行物で、続々とJR総連への革マル派浸透問題が取り上げられている。9月には第176通常国会が召集されるが、この重大な治安問題に対し、国会での追及が進むことは確実である。

JR連合は、すでに参議院選挙前の5月26日、6月4日にも公開質問状を送付したが、JR総連は「まじめな労働組合活動、平和や人権を守る活動を“良”としない輩からの悪宣伝・妨害である」などと一方的に反発するのみである。わが国の中心的な基幹産業であり、1日に1700万人が利用するJR東日本をはじめ、多数の人命を預かるJRの主要な労働組合に、共産主義革命を目指す過激派・革マル派が、影響力を行使し得る立場に浸透しているという問題は、きわめて公益性の高い重要な治安問題である。JR総連は、この問題について説明すべき社会的責任がある。